17　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。（設問の関係で、返り点・送りがなを省いたところがある。）　　　　　　　　〈新潟大〉二〇二一年度出題

　裴　　㆓ 竜　華　軍　使㆒、㆓ 北　㆒。北　　㆑ 虎。旻　㆑ 、①嘗　一　　㆑ 　三　十　有　一、②因　㆓ 山　㆒、四　 自　。㆓ 一　老　　㆒ 、「 皆　彪　也。ア似　虎　而　非。将　軍　　㆓ 　㆒、Ａ㆓ 　㆒ 。」旻　、「Ｂ真　虎　安　在　乎。」老　父　、「㆑ 　而 ③北　三　十　、往　 ㆑ 之。」旻　  
㆑ 　而　、㆓ 叢　　㆒。④果　㆓ 　虎㆒ 。　 而 、㆑ 　 、山　石　震　。　馬　辟　、弓　矢　皆　、イ殆　不　得　免。Ｃ㆑ 此　慚　、不㆓ 　射㆒㆑ 。

（李肇『唐国史補』より）

（注）

裴旻――人名。

竜華軍使――官職名。

北平――地名。

叢薄――草むら。

問１　傍線部①～④の読みを、送りがなの必要なものはそれも含めて、ひらがなで答えよ。

問２　傍線部ア「似虎而非」、傍線部イ「殆不得免」を、ひらがなのみを用いて書き下し文に改めよ。

問３　傍線部Ａ「無㆓能為㆒也」を、「為」の内容を明らかにして現代語訳せよ。

問４　傍線部Ｂ「真虎安在乎」を現代語訳せよ。

◎問５　傍線部Ｃ「自㆑此慚愧」とあるが、裴旻が「慚愧」したのはなぜか。本文全体の内容を踏まえて具体的に説明せよ。

【解答と採点基準】

問１　①＝かつて　　②＝よりて　　③＝きたすること　　④＝はたして

問２　ア＝とらににるもひなり。

「似」を「にて」、「非」を「あらず」と読んでも可。

　　　イ＝ほとんどまぬかるるをえず。

問３　Ａ将軍は Ｂ本物の虎を Ｃ射倒すことはできません

Ｃの訳が「～できない」の意になっていないものは全体０。

Ａ＝２〔「将軍」は「竜華軍使」「裴旻軍使」「あなた」など同意可。〕

Ｂ＝３〔「本当の」など同意可。〕

Ｃ＝５〔同意可。〕

問４　Ａ本物の虎は Ｂどこにいるのか

Ｂの訳が「どこにいるのか」の意になっていないものは全体０。

Ａ＝２〔「本当の」など同意可。〕

Ｂ＝８〔同意可。〕

問５　Ａ射倒したのは彪だと指摘され本物の虎を求めて出かけたが、Ｂ虎に遭遇した途端、その吼え声だけで驚き弓矢を取り落としたことで、Ｃ自身の無力さに気づいたから。

Ａ＝２〔同意可。〕

Ｂ＝４〔同意可。「（虎の）吼え声に驚いた」に類する記述がないものは０。〕

Ｃ＝４〔同意可。「無力さ」は「力量のなさ」などでも可。文末が「～から。」となっていないものは減点１。〕

【書き下し文】

　はたりて、をる。北平にし。旻をくし、問１①てに虎をすこと、問１②りてにひ、してたり。一のるりてく、「れはなり。問２ア虎にるもなり。しの虎にはば、くすきなり」と。旻曰く、「真の虎くにかるか」と。老父曰く、「よりして問１③すること三十に、にして有り」と。旻をらせてき、のにる。問１④たして真の虎有りてりづ。はにしてひはく、にりてたびえ、す。旻の馬し、皆ちて、問２イどかるるをず。此れよりし、た虎をず。

【現代語訳】

　裴旻は竜華軍使であり、北平を守備していた。北平に虎が多かった。裴旻は弓を射ることに習熟しており、以前一日に虎を三十一頭射倒したことがあり、そこで（一息入れて）山の麓で休憩し、あたりを見回して落ち着き払っていた。一人の老父で（そこへ）やって来る者がいて言うことには、「これは皆彪である。虎に似ているが虎ではない。将軍がもし本物の虎に出合えば、問３（将軍は本物の虎を）射倒すことはできません。」と。裴旻が言うことには、「問４本物の虎はどこにいるのか。」と。老父が言うことには、「ここから北に行くこと三十里（のあたり）に、しばしば虎がいます。」と。裴旻は馬を跳ねさせて（北三十里の地に）行き、草むらの中に着いた。思ったとおり本物の虎がいて躍り出てきた。体は小さいが活気は猛々しく、地に足をつけて一声吼え、山を震えさせ岩を裂いた。裴旻の馬はたじろぎ、（裴旻も）弓矢をすべて落として、（本物の虎の吼え声の脅威から）まったく逃れることはできなかった。（裴旻は）このできごと以来（自身の言動を）深く恥じて、二度と虎を射ることはなかった。